

# 伴走型介護の評価指標確立に向けて

～「高品質サービスの言語化」に向けた事例の  
検証・解析調査研究事業《分析結果》～

# 介護保険サービスにおいて目指すべき「自立支援介護」の再検証に向けて

## ○「いわゆる“自立支援介護”」について

「いわゆる“自立支援介護”」とは、内閣府『未来投資会議』において、一部有識者から提案されたもので、要介護度改善を尺度とし、介護報酬上の評価(加算のみならず減算＝ディスインセンティブ)に反映させることで介護給付費の抑制を図ろうとする方向付け。

## 【本会の対応】

- ・平成28年12月5日付で厚生労働大臣宛意見書『いわゆる「自立支援介護」について(意見)』を提出
  - ①原則として中重度要介護者を受け入れる特別養護老人ホームにおいて、利用者の要介護度が重くなることは自然の摂理である。
  - ②“自立支援”介護とは“自己実現”介護であり、そのひとらしい生活を送ることが出来る社会づくり(横断的な施策)こそ必要である。
  - ③ICTによるビッグデータから介護分野のレガシーを普遍化し、専門職等によって弾力的に運用していく取組を進めるべきである。
- ・石川会長はじめ担当役員が平成29年1月6日、厚生労働省老健局を訪問し、意見交換。
- ・平成28年度全国老人福祉施設研究会議(長崎会議)において、利用者一人ひとりの望む将来像・状態像に基づきそれぞれが願う“自立”を叶えるための伴走型自立支援を目指す「自己実現介護宣言」を発信。
- ・老施協総研内に「自己実現介護WT」を設置し、「高品質サービスの言語化」に向けた事例の検証・解析調査研究事業を立ち上げ、課題整理と伴走型介護の評価指標案の取りまとめに向けた検討を開始。

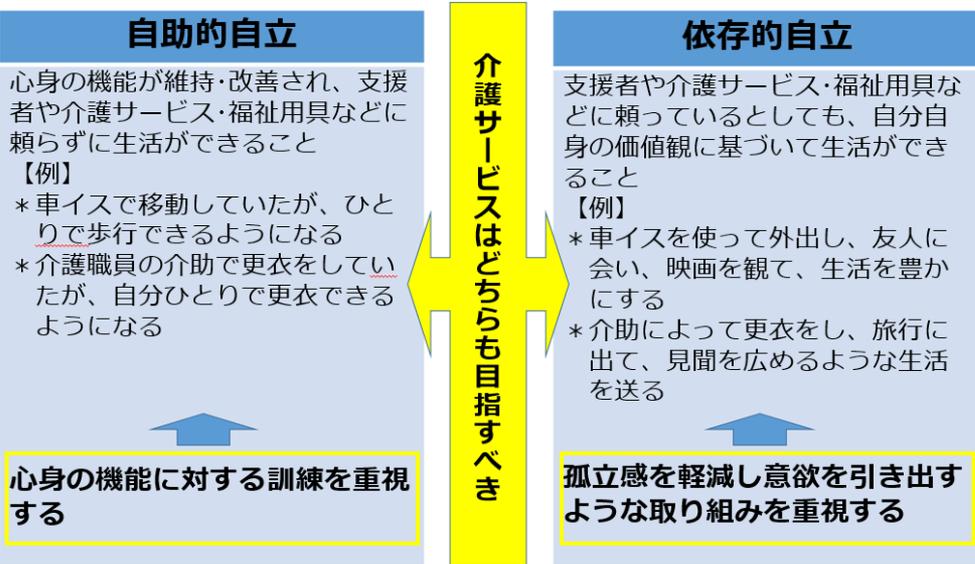
学識者:慶応義塾大学 医学部 医療政策・管理学教室 教授 宮田 裕章 氏  
東洋大学 ライフデザイン学部 生活支援学科 准教授 高野 龍昭 氏
- ・心身機能(要介護度)の改善以外の評価指標案としてICF(国際生活機能分類)の概念に基づいた「活動」及び「参加」の領域について改善・達成度を数値化したデータを集約。
- ・平成29年6月1日、本会組織内に新たに常設の「伴走型自立支援推進戦略本部」を設置し、当該テーマについて更なる調査研究事業を展開。

# 介護保険サービスにおいて目指すべき「自立支援介護」の再検証に向けて

- 要介護高齢者の状態像の推移を踏まえた介護保険制度における“自立”の概念とは
  - 介護保険制度における要介護高齢者の「自立」とは、身体機能のみならず社会生活、尊厳の保持も含めた状態改善を指す。本人が望む生活の実現すなわちQOL向上をもって評価対象とすべき。
  - 様々な疾病や障害によって要介護状態となった高齢者の状態像は段階を経て低下することが多く、本人が望む生活の実現に必要な視点は一人ひとりの状態像の数だけ存在する。

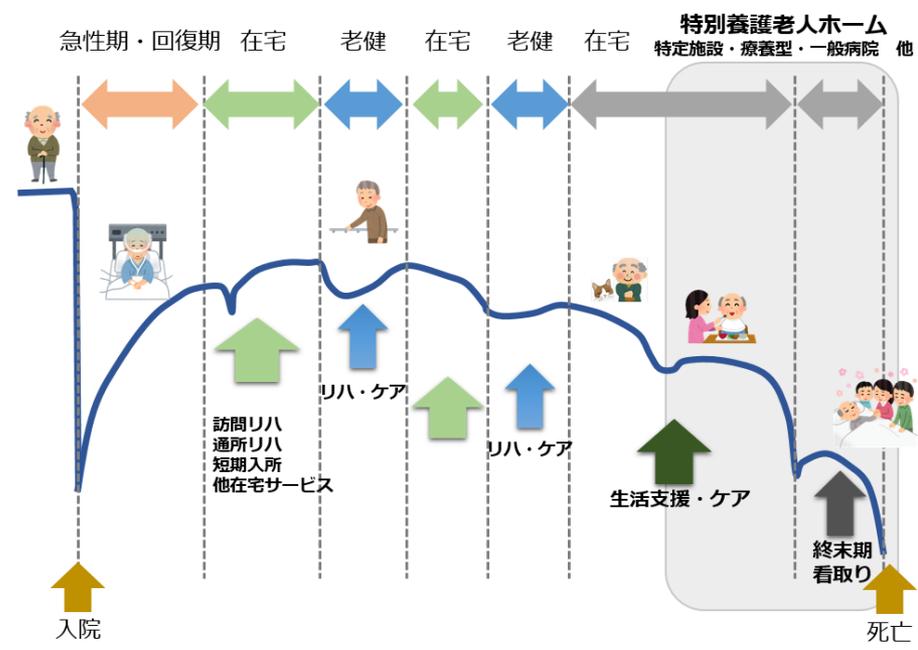
○介護保険法 第一条(目的)  
 この法律は、加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する者等について、これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行うため、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け、その行う保険給付等に関して必要な事項を定め、もって国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的とする。

## 介護保険制度における“自立”の概念



公益社団法人全国老人福祉施設協議会 第1回自己実現介護WT資料  
 東洋大学ライフデザイン学部 生活支援学科 准教授 高野龍昭  
 次の文献を参考して作成 参考: 古川孝順『社会福祉原論』 pp283-286, 誠信書房2002

## 要介護高齢者の状態像の推移のイメージ例



# 「高品質サービスの言語化」に向けた事例の検証・解析調査研究事業《分析結果》

- 本会では利用者一人ひとりの将来像・状態像に基づき、それぞれが願う“自立”を叶えるための支援を“伴走型介護”と位置付け、その評価指標の確立に向けた調査研究事業を実施。
- 本事業では“伴走型介護”の検証・解析の手法として、「ICF(国際生活機能分類)」に基づく「活動」「参加」領域の目標達成と「心身機能」の改善との相関性を数値化。

## ①収集事例の概要

対象事例：本会会員22事業所57人

※施設サービス計画書(第2表)の「短期目標」としてQOL向上及び自己実現を重視した目標を設定していること及び「短期目標」について、ひとつでも概ね6か月以内に達成できたと判断できる事例を提出。

対象属性：平均年齢 83.7歳

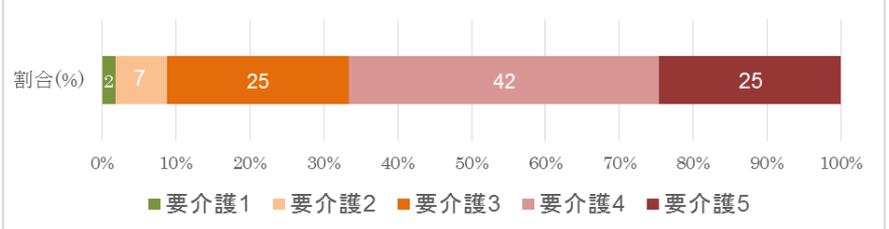
平均要介護度 3.8

認知症高齢者の日常生活自立度 III以上 55%

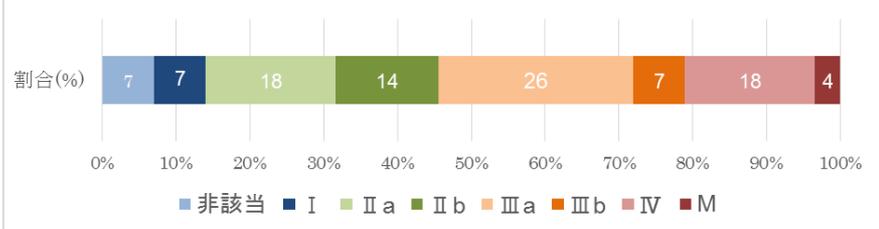
図表1 性別・年齢構成 (n=57人)

	65歳未満	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85-89歳	90歳以上	計
男性(人数)	2	1	1	5	3	4	2	18
女性(人数)	1	1	1	4	5	12	15	39
全体(人数)	3	2	2	9	8	16	17	57
%	5.3%	3.5%	3.5%	15.8%	14.0%	28.1%	29.8%	100%

図表2 要介護度の分布 (n=57人)



図表3 認知症高齢者の;日常生活自立度の分布 (n=57人)



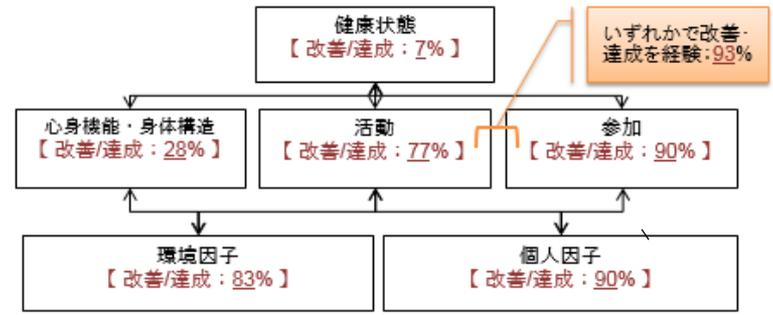
# 「高品質サービスの言語化」に向けた事例の検証・解析調査研究事業《分析結果》

- 「活動」「参加」の領域で改善及び目標達成した事例のうち、「心身機能・身体構造」の改善を伴ったのは3割。
- 7割は「心身機能・身体構造」の改善は伴わなくとも、「活動」「参加」の改善・達成等によって“QOL向上”の評価が得られた。
- 一方、「活動」「参加」の改善・達成が得られた事例について、要介護度及び認知症高齢者の日常生活自立度・障害高齢者の日常生活自立度のランクとの相関性は見られなかったことから、心身機能の状態像はQOL向上に対して影響しないことが明らかになった。

## ② 『ICF (国際生活機能分類)』 の概念に基づく改善及び目標達成状況

対象の57事例について、QOL向上及び自己実現を重視した「短期目標」をICF (国際生活機能分類) の概念に基づく様式に集約・整理し、それぞれの改善・達成率を数値化

図表4 ICF (国際生活機能分類) の概念図からみた57事例の改善及び目標達成の割合 (n=57人)

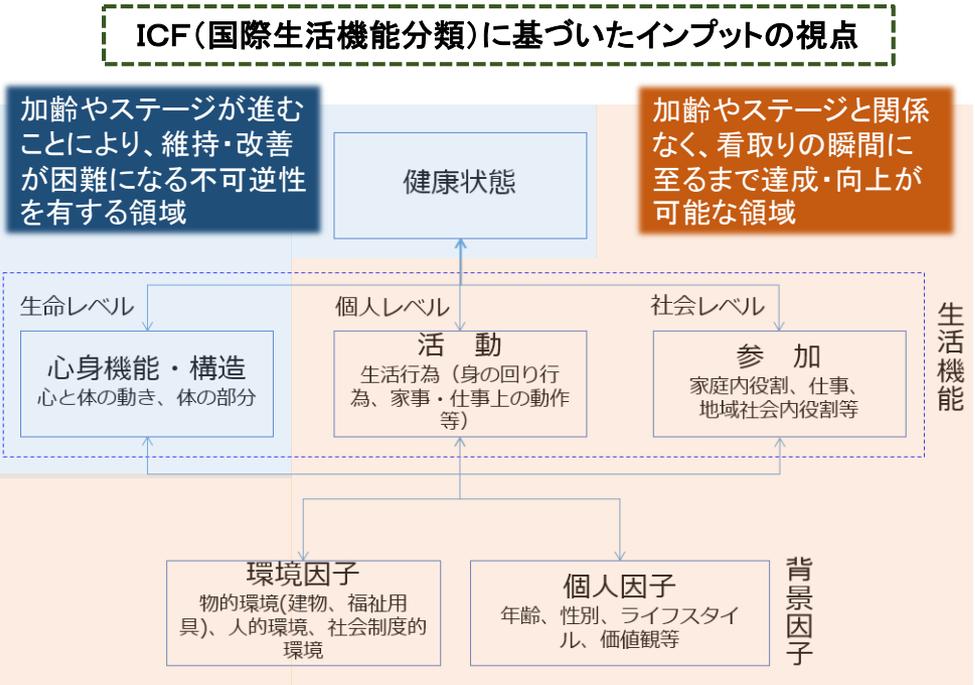


図表5 「心身機能・身体構造」の改善及び目標達成状況 (n=57人)

改善・達成 28%	維持 65%	悪化 4%
--------------	-----------	----------

図表6 「活動」「参加」の改善及び目標達成状況 (n=57人)

改善・達成 93%	維持 7%	悪化 0%
--------------	----------	----------



# 伴走型介護の評価指標確立に向けて

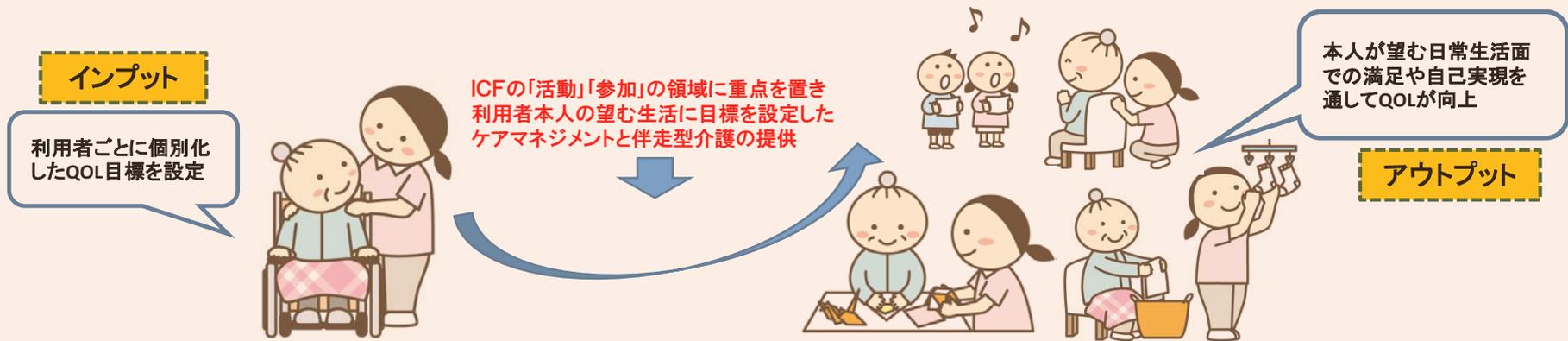
～ 自立支援・重度化防止のサービス提供における「活動」「参加」の果たす役割～

- ▶ 「心身機能・身体構造」の改善が困難であっても、「活動」「参加」の目標達成によってQOLの向上は可能。
  - …本人が望む生活に近づけるためのアプローチは、「ICF(国際生活機能分類)」における「活動」「参加」の領域を重視したケアマネジメントが有効。
- ▶ 「活動」「参加」のアウトプットを可視化することにより、有効なサービスをデータベース化し、自立支援・重度化防止に向けた取り組みの普遍化が可能。
  - …「心身機能・身体構造」の改善は広義におけるQOL向上のためのひとつのアプローチであり、アウトプット＝QOL向上に資する「ストラクチャー」「プロセス」「アウトカム」ごとの評価指標を確立すべき。

## 【今後の展望】

平成29年度老協総研調査研究助成事業「特別養護老人ホームにおけるICTを活用した伴走型介護の実践研究事業」(慶應義塾大学医学研究科医療政策・管理学チームと共同研究)において、1500例の研究対象者に対し「心身機能」「活動」「参加」における状態像を統計手法を用いてデータベース化。

介護サービス利用者の「活動」「参加」状態を客観的に評価可能な指標を検討するとともに、「活動」「参加」の「心身機能」に対する相対的独立性を検証し、公表する。



参考資料《事例》



# 事例① 「高品質サービスの言語化」に向けた事例の検証・解析調査研究事業<<分析結果>>

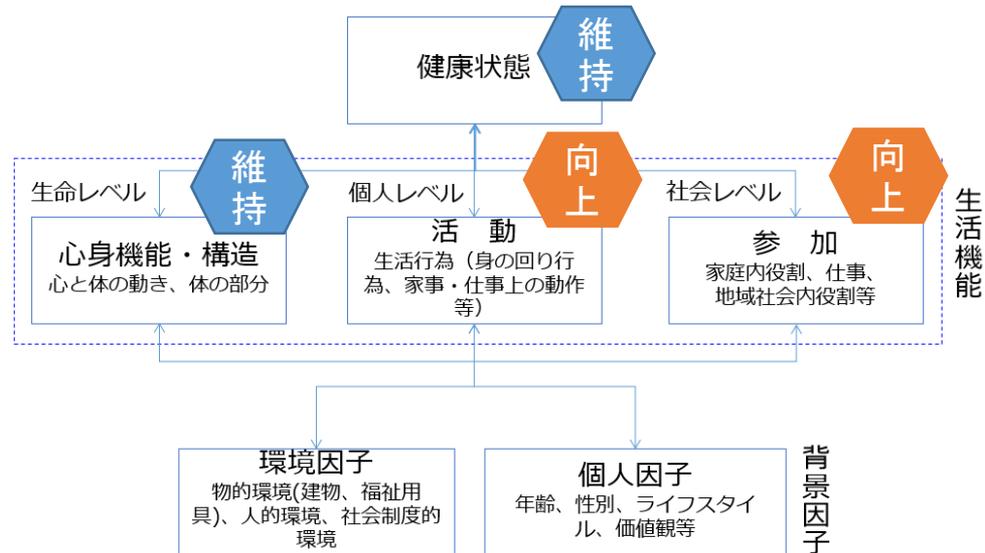
**Aさん 95歳2か月 要介護度3 寝たきり度J1 認知症度 IIa**

H14年頃に夫がなくなりS市で一人暮らしをしていたが、物忘れなどがありH16年頃、T市に移住し、長男世帯と同居する。

長男夫婦は日中就労しており日中独居。火の不始末が目立ち、家電が使えなくなったこともあり、H26年8月からデイ、ショートを利用し始める。H27年4月、主介護者の長男妻が胃がんのため入院。これを機に、特別養護老人ホームへ入所申し込みを行い、H27年6月に入所となる。

S市で生活していた頃は、近所の友人たちと書道をしていたという話がある。T市に移住後は、自宅では、危ないから何もさせないようにしていた、という話が聞かれた。

## 国際生活機能分類(ICF)に基づくアウトカム評価



# 事例① 「高品質サービスの言語化」に向けた事例の検証・解析調査研究事業〈分析結果〉

生活史やヒアリングから得られた本人の生活上の希望

- 家事等の役割や日課を持ちながら自分のペースでできる事を行い、1日1日を活動的に過ごしたい
- 天気の良い時には外出したい。いろいろな活動に参加したい

## 生活面

認知症自立度はⅡaで短期記憶は曖昧であるが長期記憶やコミュニケーション能力は保たれているため、趣味や特技を生かした生活と、自宅では行えていなかった家事や役割をもってもらい、やりがいや楽しみを創出したい。

## 機能面

認知症状が目立つようになってきてからは、自宅で過ごすことが多くなり、ショートステイを利用中でも外出機会がほとんどない状況であった。両下肢の筋力低下に加え、両膝の変形、背骨・腰の屈曲もあり、四点杖を使用しながら介護者に支えてもらいながらの歩行状況である。このことから、体力の向上が図られ安全に歩行状態を保つことができれば、外出の機会や様々な活動に参加できアクティビティの活性につながるのではないかと。

### 目標の抽出

### 目標

① 家事や趣味（書道）の作品作りを日々の日課にすることができる

② 四点杖を使用し安全に歩くことができる

# 事例① 「高品質サービスの言語化」に向けた事例の検証・解析調査研究事業<<分析結果>>

## 目標

① 家事や趣味（書道）の作品作りを日々の日課にすることができる

② 四点杖を使用し安全に歩くことができる

## サービス内容

①-1. 趣味や特技を生かした作品作りを提供し生活に楽しみが持てるように支援します。また、定期的に作品をユニット内外に展示し、意欲が次回に繋がるように支援します（毎日）。

①-2. 他者との会話や慰問等活動への参加を促します。また無理のない範囲で家事作業を提供し、役割を持ちながら生活できるように支援します（毎日）。

②-1. 毎日、職員と一緒に連結ユニットを1周します。慰問参加時は歩いて移動します。

## 達成状況

①-1. 書道クラブ活動への参加や塗り絵の制作に取り組めた。芸能祭で作品を展示、正月の書道作品は家族にも披露し達成感を得た。

①-2. 洗濯物畳みやベルマーク切り等家事作業を継続して実施できた。他ユニットの行事にも参加し、他者との会話や交流を楽しめている。

②-1. ほぼ毎日四点杖を使用し、歩行できている。正月には神社へのお参り時に境内を歩行した。疲労時への配慮をしながらユニット内外の歩行に取り組めた。

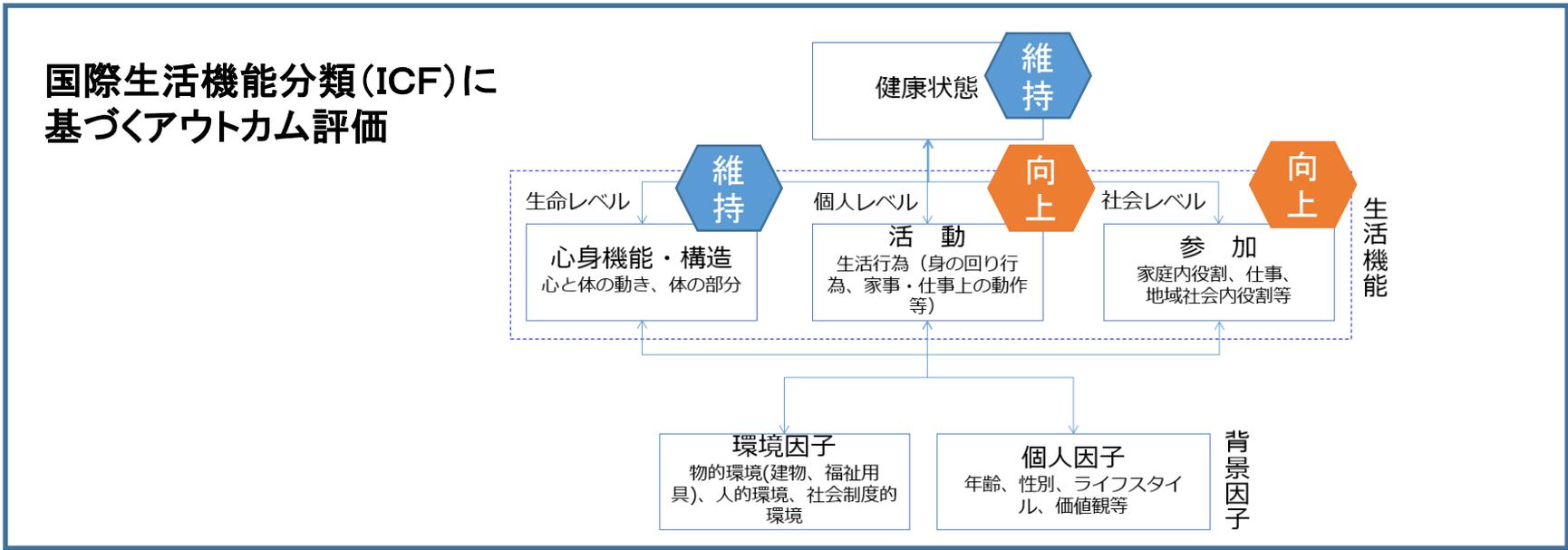
# 事例② 「高品質サービスの言語化」に向けた事例の検証・解析調査研究事業<<分析結果>>

## Bさん 77歳 要介護度4 寝たきり度 A2 認知症度 III a

四人兄弟の長女として出生。学校卒業後銀行へ就職。23歳の時に結婚、離婚され定年まで印刷会社で勤務。

平成27年、交通事故に遭い、右ひざ・大腿部・肩を骨折。入院生活が長く、その後老人保健施設を経て特別養護老人ホームへの入居となる。

日中夜間共に大きな声を出したり、易怒的になることが多い。内服治療中。入院されて以降娘様と外出したことがない。



## 事例② 「高品質サービスの言語化」に向けた事例の検証・解析調査研究事業<<分析結果>>

生活史やヒアリングから得られた本人の生活上の希望

- 「外へ行きたい」「勉強がしたい」など行事や外出を楽しみにしている
- 「食」に対しての意欲があり、チョコレートや普通のご飯が食べたい

### 生活面

社会的で活動参加意欲はあるが、躁うつ病の既往があり、その変動によっては大語で攻撃的な声だしが止まらなくなる。本人は外出の希望があるが個別対応が十分できていない状況であり、家族のみの付添では介護技術面で不安なことから、家族を交えた外出を計画することで行事・外出の楽しみを設けたい。

### 目標の抽出

### 機能面

交通事故の後遺症によるADL低下が認められ、長時間の座位は傾斜が強くなるなど安楽な姿勢を保つ取り組みが必要。つかまり立ち及び車椅子の自操は可能なため、適切なシーティング等と機能訓練を行うことによって自分の意思での移動ができることで活動範囲や意欲が増すと考えられる。

### 目標

① 3か月以内に外出する

② 座位保持ができる

# 事例② 「高品質サービスの言語化」に向けた事例の検証・解析調査研究事業<<分析結果>>

## 目標

① 3か月以内に外出する

② 座位保持ができる

## サービス内容

①-1. 気分転換を兼ね近隣のコンビニへ外出し、おやつ等の購入を支援します。(月に1~2回)。

①-2. ①-2. 10月に開催される秋の遠足へご家族との参加を検討します。

②-1. 車椅子をシーティングした上で自操していただきます。トイレ誘導時にはしっかりと足をついていただきつかまり立ちをしていただきます。(適宜)

## 達成状況

①-1. 天気の良い日に近くのコンビニに買い物に行き、ご自身で選んだプリンやアイスクリームを購入した。

①-2. 10月16日に遠足を行い娘様と参加。外食をし、ハンバーグやポテト、ご飯やアイスクリーム等を召し上がり「今日は幸せ」との感想。

②-1. 車椅子上で安楽な姿勢で過ごせるようタオルやクッションを使用してシーティングを実施している。浅く座っている時はすぐに座り直しを行い、問題なく自操され、ご自身で行きたいところへ移動されるなど活気が見られる。